



株主のみなさまへ

第96期第2四半期 株主通信 2021年4月1日～2021年9月30日

Contents	トップメッセージ……………	1	連結財務データ……………	7
	連結決算ハイライト……………	1	会社情報……………	8
	事業概況……………	3	株式情報／CSR……………	10
	高砂香料グループが取り組むSDGs……………	5	事業紹介……………裏表紙	

トップメッセージ | TOP MESSAGE |

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2022年3月期第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)の概況につきまして、ご報告申し上げます。

本年度前半のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用・所得環境や個人消費等、引き続き厳しい状況が続きましたが、企業収益や業況感は全体として徐々に改善に向かいました。世界経済につきましても、ワクチン普及の度合いに応じて国・地域ごとにばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復に向かいました。今後の内外経済の見通しにつきましては、感染対策と経済活動の両立が図られるもとで、ワクチン接種の進捗などにより感染症の影響は徐々に和らぎ、基調としては回復が続けると考えられます。ただし、これら先行きの見通しにつきましては、感染症の帰趨やそれが内外経済に与える影響によって変わり得るため、依然として不確実性が大きい状況が続くものと考えられます。

香料業界においては、競合他社との競争環境は厳しい

代表取締役社長

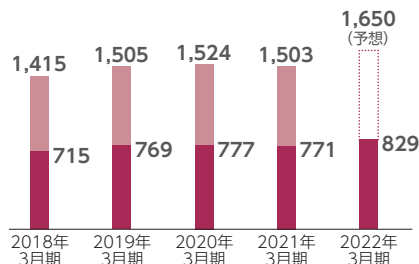
榎村 聡

連結決算ハイライト

売上高

単位：億円

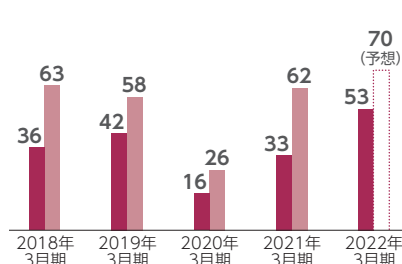
■第2四半期 ■通期



営業利益

単位：億円

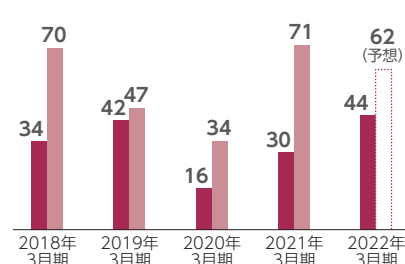
■第2四半期 ■通期



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

単位：億円

■第2四半期 ■通期



状況が続いておりますが、市場としては、中国や東南アジアでの成長が引き続き期待できる一方、成熟市場である欧米でも底堅い成長が見込まれます。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の売上高は、82,902百万円(前年同四半期比7.5%増)、営業利益は5,355百万円(前年同四半期比60.7%増)、経常利益は5,686百万円(前年同四半期比67.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,437百万円(前年同四半期比46.2%増)となりました。

なお、中間配当金につきましては、株主のみなさまの日頃からのご支援にお応えするため、長期安定配当の方針を継続し、前期同様1株あたり25円の配当とさせていただきます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

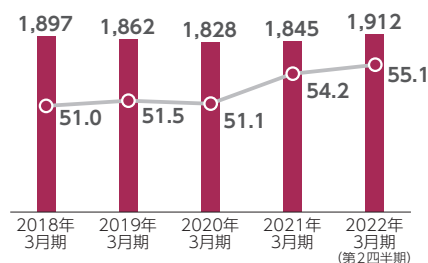
詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。 <https://www.takasago.com/ja/ir>

高砂香料 IR

検索

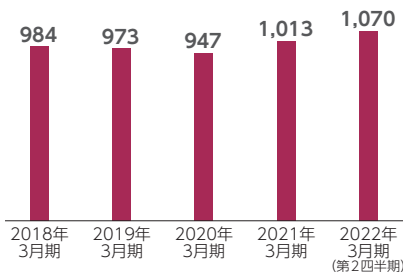
総資産／自己資本比率

単位：総資産／億円
自己資本比率／%



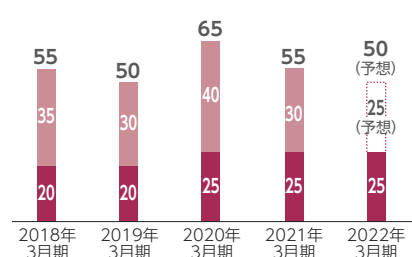
純資産

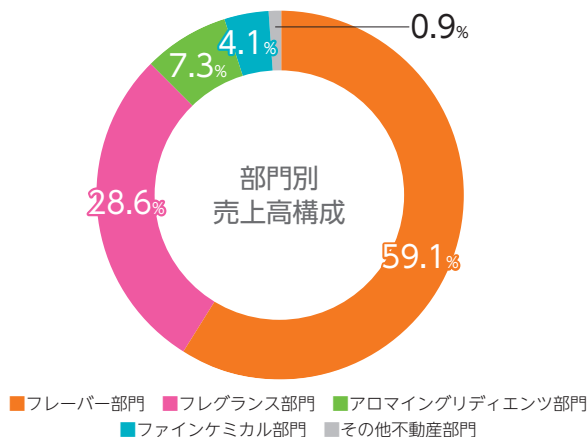
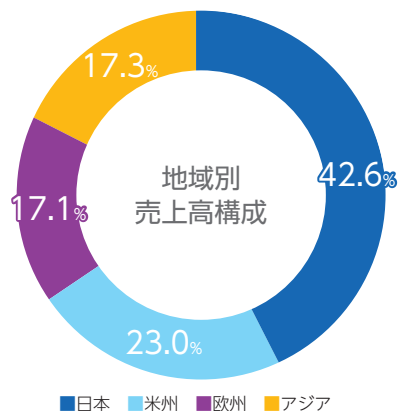
単位：億円



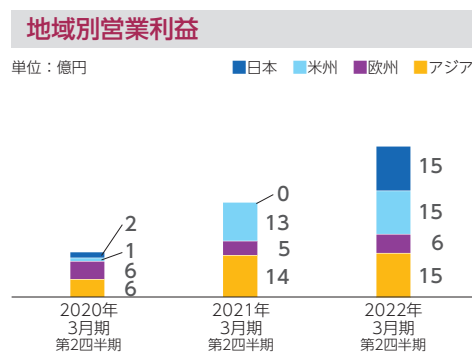
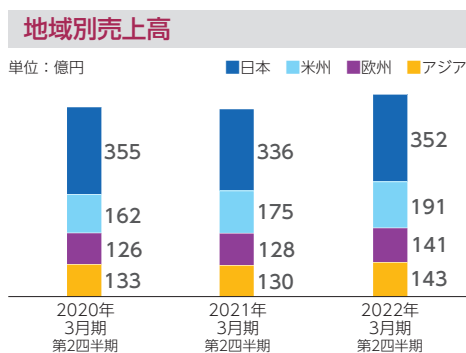
1株当たり配当金

単位：円





地域別概況



■ 日 本

フレーバー部門が堅調に推移したことにより、増収増益となりました。

■ 米 州

米国子会社においてフレグランス部門が好調に推移したことにより、増収増益となりました。

■ 欧 州

為替変動の影響を受けたものの、フランス子会社が好調に推移し、増収増益となりました。

■ アジア

中国子会社が好調に推移したことにより、増収増益となりました。

部門別概況



フレーバー部門

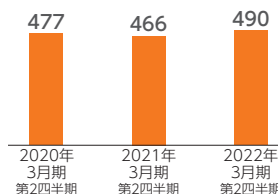
売上高 **490億円** [前年同期比5.1%増 ↑]

事業内容

飲料やデザート、菓子、乳製品、調理食品などに、優れた香りと風味を付与するフレーバーを提供し、さらに果汁やコーヒー、お茶といった食品原料も提供しています。

- 当社において飲料向け等が堅調に推移し、増収となりました。

売上高 単位：億円



フレグランス部門

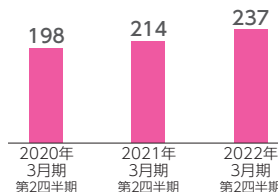
売上高 **237億円** [前年同期比10.7%増 ↑]

事業内容

香水や化粧品やシャンプー、洗剤、芳香剤、入浴剤といった商品に使用される香りを、残香性や拡散性、安定性にも優れたかたちでクリエーションし、提供しています。

- 米国子会社において芳香剤向け等が好調に推移し、増収となりました。

売上高 単位：億円



アロマイングリディエーツ部門

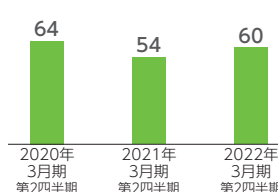
売上高 **60億円** [前年同期比10.1%増 ↑]

事業内容

光学活性で革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエーションに用いています。

- 転売品等が好調に推移した他、為替変動の影響を受け、増収となりました。

売上高 単位：億円



ファインケミカル部門

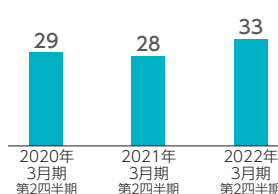
売上高 **33億円** [前年同期比20.3%増 ↑]

事業内容

独創的な触媒・不斉合成技術を核に、連続フロー技術による医薬品中間体、電子写真感光体などの機能性素材を提供しています。

- 医薬品中間体が好調に推移し、増収となりました。

売上高 単位：億円



※上記の他に、その他不動産部門の売上高7億円がございます。



私たちの事業活動は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）とさまざまな形で結びついています。

例えば、「CO₂排出削減」では全社的な省エネ活動、「グリーンケミストリー」の推進では製造プロセスの革新があります。

高砂香料グループでは、研究開発や調達・生産・物流のサプライチェーンから働き方まで領域を問わずSDGsで設定されたテーマや目標を重点課題と位置づけ、グローバルな体制で取り組んでいます。

前回から引き続き、各部門の統括責任者が、それぞれの分野における活動の進捗や課題などについてご報告します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは[Sustainable Development Goals]の略称で、2015年の国連サミットで採択され、加盟193カ国が2030年のゴールを目指して掲げた国際目標です。当社は2017年に国連グローバル・コンパクトに署名するとともに、SDGsの17の目標・169のターゲットについて、事業活動を通して貢献できることを精査し、地球規模の課題解決に取り組んでいます。

高砂とSDGs <https://www.takasago.com/ja/sustainability/sdgs.html>



研究開発

酵素やバイオ技術による天然原料の代替、環境負荷の少ない製造プロセス開発に注力

取締役 常務執行役員
研究開発本部長、ファインケミカル事業本部担当
谷中 史弘

●研究開発に関連するSDGs目標



ゼロエミ・チャレンジ(脱炭素社会の実現をイノベーションで切り拓く)

当社は、経済産業省が主催する「ゼロエミ・チャレンジ企業(脱炭素化社会の実現に向けてイノベーションの取組みに挑戦する企業)」の一社として認定されTCFDサミット2020の場において公表されました。

当社の研究開発では、前中期経営計画One-Tより、「SDGsとGSC（グリーンサステナブルケミストリー）を考慮した環境に優しい研究開発」を目指してまいりました。昨年100周年を迎え、その先の100年を見据えて新たに「自然との共生（Symbiosis）」を掲げて、より強力に脱炭素社会の実現に対する研究開発を推進してまいります。



調達

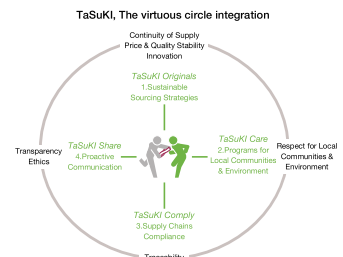
世界標準の「責任ある調達」に向けた仕組みやガイドラインを整備・実践

取締役 常務執行役員
調達本部長 兼 サプライチェーン本部長 兼 生産本部担当
水野 直樹

●調達に関連するSDGs目標



- ※1：SMETA (Sedex Members Ethical Trade Audit) は、英国で設立されたNPO会員組織のSEDEX (Supplier Ethical Data Exchange) が開発した監査基準。
- ※2：VUCA (ブーカ) は、米国で生まれたビジネス用語で、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の頭文字を組み合わせた造語。
- ※3：TaSuKI (たすき：Takasago Global Procurement Sustainability Key initiatives)
- ※4：TACMI (たくみ：Takasago Global Procurement Arts & Crafts Mutual Interaction)



SDGs目標の中で、特に重視している項目と最近の成果についてお聞かせください。

当社の研究開発部門は、基礎研究や製品開発だけでなく、香料の原料となる天然資源の持続可能性や製造プロセスにおける環境負荷の低減にも深くかかわることから、「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「13. 気候変動に具体的な対策を」「15. 陸の豊かさを守ろう」などへの貢献が重要です。

そうした中で、研究開発本部では「グリーンケミストリー」を念頭に製造プロセスの革新にも注力しています。持続可能な製造プロセスの実現に向け、2017年に「プロセス開発研究所」を設置し、コンパクトで効率性の高い連続フロー技術をはじめ、より安全で環境負荷の少ない製造工程を探索しています。

素材開発における最近の成果としては、再生可能原料を積極的に活用し、Sustainable Scent®シリーズなど環境負荷の少ないアロマイングリディエーツ製品を商品化。これには独自の不斉合成技術や触媒技術が活かされています。また、バイオ技術を取り入れ、酵素や微生物によるナチュラル香料素材の開発にも注力し、2019年に新たなナチュラル香料素材の製造を開始しました。

生産量が減少し安定入手が困難な天然原料については、天然原料の中で貢献度の高い香気成分を自社で探索・素材化するなど代替化も一部で始めています。

調達活動における取り組みの進捗状況などを教えてください。

調達部門では、ここ数年「責任ある調達」に向け環境整備を加速させています。例えば、SDGsを背景に関心の高い「持続可能性」に関し、三つの評価軸（社会、環境、経済）で潜在的リスクを特定して原材料の適切な調達網を見極める手法を定めました。2020年1月にはISO26000「社会的責任に関する手引き」を参考にSMETA^{*1}の基準に準拠した「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を策定し、目下、お取引先様にご理解頂き、自己評価質問票なども活用して浸透を図っています。安全・安心の観点で行ってきた調査書による監査には、倫理項目を加え継続し、必要に応じ現地調査や第三者監査の実施も検討しています。

SDGs目標「13. 気候変動に具体的な対策を」にかかわってきますが、近年、多発している大規模な自然災害の影響はありますか？

世界中からの様々な原料を用いる香料産業では、気候変動に関して、天産物の収穫量、品質、価格への複合的影響に限らず、調達網全体へのリスクとしても対応が求められます。例えば、ハリケーンの時期には、フロリダの柑橘や、テキサスの石油コンビナートへの被害を案じます。マダガスカルへのサイクロン襲来によるバニラビーンズの高騰は、まだ記憶に新しい出来事です。ま

グリーンケミストリーに寄与する技術として「環境負荷を削減する触媒」や「連続フロー技術の応用拡大」が注目されています。

触媒では、2019年に従来の還元剤を用いる方法から廃棄物の少ない触媒の水素化反応に置き換える技術を開発しています。連続フロー技術では、適用範囲の拡大を目指し、医薬品中間体に限らず、アロマイングリディエーツへの活用も検討中です。

今後、注力するテーマやターゲットなどを紹介してください。

研究開発部門では、バイオ技術がグリーンケミストリーを推進するキーテクノロジーと位置づけ、化学合成技術との融合によって環境負荷の少ないモノ作りを加速していきます。例えば、天然原料の成分の中で、香りが弱く香料としては活用できない物質をバイオ技術で良い香りのする有用な香料原料に転換させる研究開発を進めています。

製造プロセス開発では、触媒や連続フロー技術を進化させるとともに、入口から出口まで全製造プロセスにおけるエネルギー効率の向上とCO₂排出削減の技術開発に注力します。

また、香りによるストレス低減、睡眠改善、香りと他の感覚とのクロスモーダル研究など生活の質を高めるヒューマンサイエンスの領域にも力を入れていきます。

た、今年、欧州ではライン川などで洪水が発生し、物流に広範な影響が及びました。調達本部では、グローバルネットワークを活かして協調し、供給確保を第一に対応を行い、生産への影響を最小化しています。今後もBCPを計画的に推進します。

注力すべき課題や今後の方針は、いかがですか？

いわゆる「VUCA^{*2}の時代」には、リスクマネジメントによる備えが必須で、リスク回避の仮説をもとにPDCAを短期に回して体制の強靱化を図ることが重要です。同時に、お取引先様あつての調達であることを念頭に、今後も相互のコミュニケーションやリレーションシップを大切に「共生・共栄・共存」に努めます。調達本部の使命は、事業の成長を支えるバリューチェーンの扇の要となり、「つながる心」を大切に、地球環境・安全衛生・法令・人権・地域文化・公正な取引に配慮した「責任ある調達」を実践することです。それには、天然原料・合成原料を問わず、より上流を視野に入れた取り組みに注力していかねばなりません。そのために、戦略的に持続可能な原料調達を目指すTaSuKI^{*3}や調達部門が開発段階からかかわって開発・製造をサポートするTACMI^{*4}など新たな調達モデルの可能性を広げていきます。同時に、再生可能原料やリサイクル容器の取り組みも継続的に推進します。

経営成績

単位：億円

科 目	2018年3月期 (第92期／第2四半期)	2019年3月期 (第93期／第2四半期)	2020年3月期 (第94期／第2四半期)	2021年3月期 (第95期／第2四半期)	2022年3月期 (第96期／第2四半期)
売 上 高	715	769	777	771	829
売 上 原 価	485	527	559	544	567
売 上 総 利 益	229	241	217	226	261
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	192	199	201	193	208
営 業 利 益	36	42	16	33	53
経 常 利 益	42	52	14	34	56
親会社株主に帰属する四半期純利益	34	42	16	30	44

財政状態

単位：億円

科 目	2018年3月期 (第92期)	2019年3月期 (第93期)	2020年3月期 (第94期)	2021年3月期 (第95期)	2022年3月期 (第96期／第2四半期)
流 動 資 産	918	943	909	917	1,003
固 定 資 産	979	918	918	927	908
流 動 負 債	527	529	554	503	526
固 定 負 債	386	358	326	327	315
純 資 産	984	973	947	1,013	1,070
(う ち 株 主 資 本)	(796)	(834)	(853)	(912)	(951)
総 資 産	1,897	1,862	1,828	1,845	1,912

会社概要

会 社 名	高砂香料工業株式会社 (TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本 社	〒 144-8721 東京都大田区蒲田 5 丁目 37 番 1 号 ニッセイアロマスクエア 17F
T E L	03-5744-0511
創 業	1920年2月9日
資 本 金	92億4,853万8,972円

国内事業所一覧

本 社	大 阪 支 店	名 古 屋 支 店	福 岡 支 店	
平塚研究所	平塚工場	磐田工場	鹿島工場	三原工場

国内子会社

株式会社高砂ケミカル	高栄産業株式会社
高砂スパイス株式会社	高和産業株式会社
高砂フードプロダクツ株式会社	有限会社高砂保険サービス
高砂珈琲株式会社	南海果工株式会社
株式会社高砂インターナショナルコーポレーション	高砂香料西日本工場株式会社
株式会社高砂アロマス	

取締役および監査役 (2021年6月24日現在)

[illegible]

(注) 1. 取締役野依良治氏、松田浩明氏は社外取締役であります。
2. 監査役小野哲氏、中江康男氏は社外監査役であります。

執行役員 (2021年6月24日現在)

聰也哉一弘樹一樹康之則彦
久達健史直裕茂浩孝文明裕
村原形川中野野端元林藤野田
桼藤山染谷水磯川隈木佐川平
員員員員員員員員員員員員
役役役役役役役役役役役役役
行行行行行行行行行行行行
執執執執執執執執執執執執執
長務務務務務務務務務務務務
杜常常常常常常常常執執執執

THE TAKASAGO COLLECTION

高砂コレクションは、香りや香料が歩んできた長い歴史と、その地理的な広がりを反映して、古代エジプトの香油瓶から現代の香水瓶に至るまでの、香りを容れるさまざまな形の「器」のほか、日本の香道具や香木、さらには香りに関する絵画やポスターといった、多様な時代と地域、形態のものから構成される多彩なコレクションとなっています。

それらは他美術館等に協力して出展するほか、本社ロビーに設けたギャラリーでご覧いただけます。

※ギャラリーは臨時休館しております。再開時期はHP
でご確認ください。

マイセン
色絵勿忘草文貼付香水瓶(一対)

19世紀 磁器 ドイツ h 9cm

18世紀初頭、ドイツのザクセン公国を統治する選帝侯
 アウグスト強王のもと、白色磁器の焼成に成功し設立され
 たマイセン窯。この手法はヨーロッパ各地に広まり、フラン
 スのセヴル窯、イギリスのチェルシー窯がこれに続いた。
 美しい色彩や装飾が施せる磁器製香水瓶は貴族たちの
 間で大人気となり、様々な形の香水瓶が製作された。

本品は、勿忘草の花や葉の装飾が立体的に施されたペアの香水瓶。器体には飛び交う蝶と昆虫が描かれている。自然をモチーフにした優雅で愛らしいデザインである。



グローバルネットワーク

ヨーロッパ・中東・アフリカ

フランス	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.
ドイツ	Takasago Europe G.m.b.H. Takasago International (Deutschland) G.m.b.H.
イタリア	Takasago International (Italia) S.R.L.
スペイン	Takasago International Chemicals (Europe), S.A. Takasago International (España) S.L.U.
イギリス	Takasago (U.K.) Ltd.
トルコ	Takasago International Turkey Esans Ve Aroma San. TIC. A.S.
南アフリカ	Takasago International Corporation South Africa (Pty) Ltd.
マダガスカル	Takasago Madagascar S.A.
モロッコ	STE Cananga S.A.R.L.

アメリカ大陸

アメリカ	Takasago International Corporation (U.S.A.) Centre Ingredient Technology, Inc.
メキシコ	Takasago De Mexico S.A. De C.V.
ブラジル	Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.



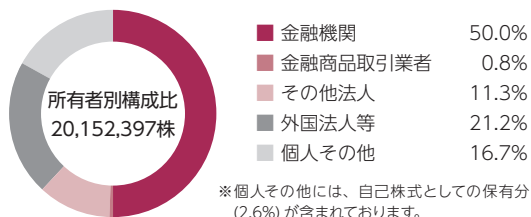
アジア・パシフィック

日本	Takasago International Corporation	パキスタン	Takasago International (Pakistan) Pvt. Ltd.
シンガポール	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.	中国	上海高砂香料有限公司 上海高砂・鑑臣香料有限公司 廈門華日食品有限公司 高砂香料(広州)有限公司
フィリピン	Takasago International (Philippines), Inc.	韓国	Takasago International Corporation (Korea)
タイ	Takasago Import and Export (Thailand) Ltd.	マレーシア	Takasago International (Malaysia) Sdn.Bhd.
インドネシア	PT. Takasago International Indonesia		
インド	PT. Takasago Indonesia Takasago International (India) Pvt. Ltd.		

株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	20,152,397株
株主数	5,282名

株式の分布状況



大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,649	8.4%
日本生命保険相互会社	1,468	7.5%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,350	6.9%
株式会社三菱UFJ銀行	947	4.8%
共栄火災海上保険株式会社	780	4.0%
中江産業株式会社	720	3.7%
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES PARIS/JASDEC/BNPP SA RETAIL FRANCE	689	3.5%
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	625	3.2%
高砂香料従業員持株会	511	2.6%
株式会社みずほ銀行	486	2.5%

(注) 1. 当社は自己株式517,590株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。また、持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。

2. 株式会社日本カストディ銀行(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の持株数には信託業務に係る株式数が含まれております。

表紙の写真

牡丹唐草蒔絵香道具 1885年 盆 24.6 × 42.8 × h7.5cm

丸角で脚に削形をつけた香盆である。見込から立ち上がり内面にかけては梨子地とし、側面は黒漆を塗って金の平蒔絵で牡丹唐草を描いている。右から香木を容れる香箱、香を焚く香炉、焚殻を容れる焚殻入が置かれており、香盆を用いた香道具の標準的なセットとなっている。

撮影：十文字 美信

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	同
(同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 電話 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所第1部(化学)
証券コード	4914
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う
公告掲載URL	https://www.takasago.com/ja/ir/e_announce.html

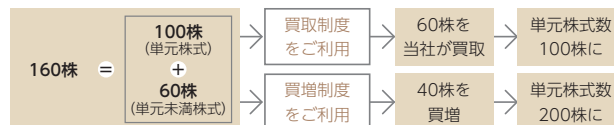
※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する手続きについて

● 単元未満株式(100株未満の株式)買取・買増制度について

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主さまは、ぜひ買取・買増制度のご利用についてご検討くださいますようお願い申し上げます。

買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



「環境・衛生・安全」への取り組み

当社グループは、持続的な(サステナブル)社会の実現に向けて、環境保全に対しグローバルに取り組んでおります。詳細については、当社ホームページ「サステナビリティ」をご参照ください。



高砂香料工業株式会社
「社会・環境報告書 2020」

URL https://www.takasago.com/ja/aboutus/sustainability/ehs/pdf/takasago_J_2020.pdf



当社のファインケミカル事業は、野依社外取締役のノーベル賞授賞技術でもある触媒をきっかけに本格化しました。

触媒とは、効率的に化学反応を促進するもので、化学品の製造には欠かせないものです。

この技術は調合香料の原料となるアロマイングリディエンツに活かされてきましたが、これをさまざまな化学品に応用しているのがファインケミカル事業です。

医薬品中間体

多くの海外メガファーマを含むグローバルマーケットへ、医薬品の原料を製造・販売しています。メガファーマの新薬開発や製造をサポートし、多くの患者さんの健康で豊かな生活に貢献しています。



電子写真感光体

コピー機やレーザープリンターの基幹となる不可欠な部材です。皆さまのオフィスやご自宅のプリンターにも当社の原料が使われているかもしれません。



製品・技術への広がり

コア技術

触媒技術

触媒は当社の基盤技術です。SDGsを志向した触媒の研究開発に注力し、多くの特許を取得しています。触媒技術に応用することでさまざまな製品を生み出しているほか、触媒自体の販売も行っています。

連続フロー反応技術^{※1}

製造プロセスの効率化と廃棄物の低減を実現する最先端の連続フロー技術を有し、医薬品中間体の製造に活用しています。GMP^{※2}商業生産も行っており、触媒技術と合わせSDGsに寄与しています。

※1 連続フロー反応技術
化学製品製造の技術の1つで、元々は石油化学の分野において大量製造に使われてきた技術です。近年は米国の食品医薬品局 (FDA) が効率化や品質管理の面でこの技術を使うことを推奨しています。

※2 GMP
[Good Manufacturing Practice]の略で、医薬品などの製造・品質管理の基準のこと。当該基準を満たしているか当局による査察を受けております。